

タイトル：2023 年度 教育セミナー(第 19 回)

日時：2023 年度 9 月 21 日 (木) ~24 日 (日)

場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室 (303)

中村観月 (東京外国語大学大学院総合国際学研究科)

4 日間に渡る中東☆イスラームセミナーにおいて、様々な分野で研究に取り組む先生方と学生によるご発表を通じ、自身が修士課程で取り組む研究を見つめ直す機会となりました。次回以降セミナーへの参加を検討する学生に向け、自身がセミナーに参加した理由、セミナーを通じて学んだ点や反省点についてお伝えします。

私は「20 世紀初頭にエジプトが観光の文脈で打ち出した自国イメージ」について、当時の旅行パンフレットや観光庁の出版物を元に研究しています。出版物の中で、多くの場合エジプトに暮らすムスリムとコプトは、同じ偉大なファラオの歴史を過去に持つ者たちとして描かれます。私の関心が古代エジプトに集中していたため、イスラームについての知識を深め、各時代でムスリムがどう生きていたのか、周辺からどのような捉え方をされているのかについて学びたいと考え、セミナーに参加させて頂きました。

セミナーでは、イスラームに関連する様々な研究に取り組む先生方と学生の発表をお聞きしました。自身の研究分野とは離れた研究をされている方が多くいらっしゃいましたが、分野が違って共通する研究手法や枠組み、発表において留意すべき点を学ぶことが出来ました。例えば、一次資料の解釈を提示する際には解釈に論理的飛躍が無いように根拠を持って示すこと、定性的分析だけでなく定量的分析を取り入れることでより客観性を持たせられること、発表時にはまず研究意義を伝えて筋を通して説明することなどが挙げられます。分野が異なる方が多く参加されるセミナーだからこそ、多角的に研究上必要なことを学ぶことが出来ました。また、発表者の皆様の研究対象への謙虚な姿勢にハッとさせられることが多かったです。様々な資料・記述を元に、研究の筋道を立てていらっしゃいました。研究する上で自身の解釈に合うような資料・記述だけを取捨選択してしまわないよう、肝に銘じていきたいと痛感しました。

自身の反省として、もっと積極的に発言し議論に加わるべきだったと考えます。質問する際、身近でない研究分野に対して自信が持てず、消極的になってしまいました。しかし、自身が発表を聞いて疑問に感じた点は、すなわち自身の研究でも突っ込まれる可能性があると思います。セミナーに参加される皆様は初歩的な質問に対しても丁寧にお答えして下さい。次回このような機会があれば、恐れずに深く議論に参加したいです。

最後に、この度貴重な機会を提供して下さった AA 研の皆様、ともに学びを深めて下さった参加者の皆様に心より感謝申し上げます。そして、最終日に体調を崩した自分をお気遣い下さり、Zoom での参加準備にご尽力下さった野田先生、千葉様に感謝致します。ありがとうございました。